

海老沢達郎の教養講座

第1回 Gender Gap について、日本は (2021年4月15日)

今月から月1回、「海老沢達郎の教養講座」を担当することになりました。国内の問題を国際比較して日本の現状を理解し、外国映画から異文化を学ぶといったことまで、様々なこととお話して教養を高めるお手伝いをしたいと思っています。東京五輪・パラリンピック大会組織委員会の会長が「女性蔑視」発言をし、国内のみならず、国際的にも批判されて辞任したことは皆さんの記憶に残っていることと思います。そこで、第1回は「Gender Gap (社会における男女格差) について、日本は」と題してお話し致します。



世界経済フォーラム (World Economic Forum) が 2021 年 3 月に “Global Gender Gap Report 2021” を発表し、その中で「世界男女格差指数 2021 年版ランキング」(The Global Gender Gap Index 2021 Rankings) を掲載しております。156 カ国を対象に、四つの分野、「経済活動の参加と機会」(Economic Participation and Opportunity)、「教育達成度」(Educational Attainment)、「健康と生存」(Health and Survival)、「政治的エンパワーメント」(Political Empowerment) のデータを分析し、男女格差について順位をつけています。四つの分野は以後、簡潔に『経済』、『教育』、『健康』、『政治』と致します。それでは、世界経済フォーラムの「2021 年版ランキング」に基づいて話を進めていきます。「総合順位」については、日本は 120 位。G7 諸国では最下位で、韓国 (102 位)、中国 (107 位) にも及びませんでした。男女格差の少ないトップ 10 とドイツ、フランス、イギリス、カナダ、アメリカ、オーストラリア、イタリア、ロシア、韓国、中国、インドなどの主要諸国と日本の「総合順位」を詳しく調べていくことに致します。1 が完全平等で、0 が完全不平等を示しています。

総合順位	スコア	総合順位	スコア
1位 アイスランド	0.892	11位 ドイツ	0.796
2位 フィンランド	0.861	16位 フランス	0.784
3位 ノルウェー	0.849	23位 イギリス	0.775

4位 ニュージーランド	0.840	24位 カナダ	0.772
5位 スウェーデン	0.823	30位 アメリカ	0.763
6位 ナミビア	0.809	50位 オーストラリア	0.731
7位 ルワンダ	0.805	63位 イタリア	0.721
8位 リトアニア	0.804	81位 ロシア	0.708
9位 アイルランド	0.800	102位 韓国	0.687
10位 スイス	0.798	107位 中国	0.682
--	--	120位 日本	0.656
--	--	140位 インド	0.625

The Global Gender Gap Index 2021 rankings より作成

トップ10の特徴は北欧諸国（アイスランド、フィンランド、ノルウェー、スウェーデン）が4カ国、北欧以外のヨーロッパ諸国（リトアニア、アイルランド、スイス）が3カ国で、ヨーロッパ全体で7カ国とヨーロッパ勢が70%を占めていることです。

それでは、次に、各分野を詳しく調べていきたいと思えます。最初は、『経済』の分野トップ10と日本を含めた主要諸国を見ていきます。

分野順位	スコア	分野順位	スコア
1位 ラオス	0.915	25位 ロシア	0.767
2位 バハマ	0.857	30位 アメリカ	0.754
3位 ブルンジ	0.855	40位 カナダ	0.741
4位 アイスランド	0.846	55位 イギリス	0.716
5位 ベラルーシ	0.840	58位 フランス	0.710
6位 ギニア	0.839	62位 ドイツ	0.706
7位 バルバドス	0.837	69位 中国	0.701
8位 ラトビア	0.822	70位 オーストラリア	0.700
9位 ベニン	0.814	114位 イタリア	0.609
10位 モルドバ	0.811	117位 日本	0.604
--	--	123位 韓国	0.586
--	--	151位 インド	0.326

The Global Gender Gap Index rankings by subindex,2021 より作成

この分野ではトップ10を見ると、「総合順位」とは違って、開発途上国に男

女格差が少ないことが、その大きな特徴だと思います。中国が前年（91位）から順位を大幅に上げております。日本はイタリア（前年117位）にも抜かれ117位（前年115位）で、G7諸国で最下位となりました。日本は『経済』の分野で、「男女格差」が大きいことが特徴です。では、日本の『経済』の分野を項目ごとに調べてみたいと思います。

	ランク	スコア
経済	117位	0.604
労働参加男女比（%）	68位	0.840
同一労働賃金男女格差	83位	0.651
所得男女格差	101位	0.563
管理職男女比（%）	139位	0.173
専門職・技術職男女比（%）	105位	0.690

Index of Country Profiles Japan より作成

日本は、「管理職男女比」で、男女格差が156カ国中139位とビックリ仰天の順位になっています。「専門職・技術職男女比」は105位、「所得男女格差」も101位ですので、『経済』の分野では、この三つの項目が日本にとって大きな課題と言えるでしょう。世界経済フォーラムが、“Global Gender Gap Report 2021”（以後、“Report 21”と致します）の中で、女性が占めている管理職の比率は、アメリカが42%、スウェーデンが40%、イギリスが36.8%、フランスが34.6%、ドイツが29%、イタリアとオランダが27%、韓国が15.6%、日本が14.7%と、まだまだ先進国でも女性の管理職が少ないことを指摘しております。日本の女性の管理職の比率が極端に少ないことも明らかです。また、日本の上場企業の取締役の男女比は女性が8.40%、男性が91.60%です。G7諸国では、フランスが女性45.20%、男性54.80%、イタリアが女性36.10%、男性63.90%、ドイツが女性35.60%、男性64.40%、イギリスが女性32.60%、男性67.40%、カナダが女性29.10%、男性70.90%、アメリカが女性26.10%、男性73.90%で、日本の女性の取締役の比率はG7諸国の中で大きく離されての最下位です。

次に、『教育』の分野を見ていきます。分野順位トップ1位（26カ国）のうちヨーロッパ諸国が13カ国（オーストリア、ベルギー、チェコ、デンマーク、エストニア、フィンランド、フランス、ラトビア、ルクセンブルク、マルタ、オランダ、ロシア、スロバキア）を占めているのが特徴です。

日本を含めた主要諸国を見ていきたいと思います。日本は92位で、主要諸国

の中では低い順位で、G7 諸国では最下位となっています。

分野順位	スコア
1位 オーストラリア	1.000
1位 カナダ	1.000
1位 フランス	1.000
1位 ロシア	1.000
36位 アメリカ	1.000
40位 イギリス	0.999
55位 ドイツ	0.997
57位 イタリア	0.997
92位 日本	0.983
103位 中国	0.973
104位 韓国	0.973
114位 インド	0.962

The Global Gender Gap Index rankings by subindex,2021 より作成

日本、中国、韓国の順位が低いのが特徴です。ドイツが前年（103位）から大幅に順位を上げています。それでは、日本の『教育』の分野を項目ごとに詳しく見ていきます。

	ランク	スコア
教育	92位	0.983
識字率男女比 (%)	1位	1.000
初等教育就学率男女比 (%)	1位	1.000
中等教育就学率男女比 (%)	129位	0.953
高等教育就学率男女比 (%)	110位	0.952

Index of Country Profiles Japan より作成

“Report 2021”によれば、世界での2018年の高等教育就学率は女子が40.6%、男子が35.6%で女子の比率が男子より高くなっています。高等教育を大学・大学院に限定すれば、平成28年（2016年）度の日本における大学進学率は、女子が48.2%、男子が55.6%で、男子が7.4%ほど高くなっております。大学卒業後、直ちに大学院に進学する男女の比率は、平成28年（2016年）度では、女子5.9%、男子14.7%（内閣府男女共同参画局の「教育をめぐる状況」を参考）となっており、日本では、女子の進学率の低いのが目立ちます。これが、恐ら

く、様々な分野での女性の社会参加と活躍の一つの障害になっているのではないのでしょうか。

次に、『健康』の分野を見ていきたいと思います。1位（0.980）が29カ国あり、G20諸国では、ロシア、ブラジルの2カ国です。日本は65位で、前年（40位）から順位を下げています。それでは、主要諸国について見ていきます。

分野順位	スコア
1位 ロシア	0.980
54位 韓国	0.976
65位 日本	0.973
75位 ドイツ	0.972
86位 フランス	0.970
87位 アメリカ	0.970
99位 オーストラリア	0.968
100位 カナダ	0.968
110位 イギリス	0.966
118位 イタリア	0.965
155位 インド	0.937
156位 中国	0.935

The Global Gender Gap Index rankings by subindex,2021 より作成

次に、日本の『健康』の分野を項目ごとに詳しく見ていきましょう。

	ランク	スコア
健康	65位	0.973
出生時の男女比 (%)	1位	0.944
健康寿命男女格差	72位	1.040

Index of Country Profiles Japan より作成

健康寿命（自立した生活ができる期間）は前年（59位）から順位を落としましたが、『健康』の分野は、日本がG7諸国の中では最高位の順位であり、日本にとって、唯一の「男女格差」の少ない分野であります。厚生労働省の「平成30年度（2018年度）我が国の人口調査」によると、2016年に生まれた男の子は501,880人、女の子は475,098人で男の子が女の子を26,782人上回りました。また、内閣府によると、2016年の日本人の健康寿命は、男性が72.14歳、女性

が 74.79 歳となっております。

次に、『政治』の分野について見ていきます。先ず、トップ10と日本を含めた主要諸国の順位を見ていくことにします。

分野順位	スコア	分野順位	スコア
1位 アイスランド	0.760	20位 フランス	0.457
2位 フィンランド	0.669	23位 イギリス	0.419
3位 ノルウェー	0.640	29位 カナダ	0.381
4位 ニュージーランド	0.630	37位 アメリカ	0.329
5位 ニカラグア	0.606	41位 イタリア	0.313
6位 ルワンダ	0.563	51位 インド	0.276
7位 バングラデシュ	0.546	54位 オーストラリア	0.258
8位 コスタリカ	0.545	68位 韓国	0.214
9位 スウェーデン	0.522	118位 中国	0.118
10位 ドイツ	0.509	133位 ロシア	0.085
--	--	147位 日本	0.061

『政治』の分野では、トップ10にヨーロッパ諸国が5カ国（アイスランド、フィンランド、ノルウェー、スウェーデン、ドイツ）と多いのが、その特徴です。アイスランドは断トツの1位で、スコアは0.760です。日本は156カ国中、なんと147位で、スコアは0.061となっています。日本は、中国、ロシアにも及ばず世界最低の水準です。

日本の『政治』の分野を項目ごとに詳しく見ていきます。

	ランク	スコア
政治	147位	0.061
国会議員の男女比 (%)	140位	0.110
閣僚の男女比 (%)	126位	0.110
国家元首の在任年数男女格差 (過去50年)	76位	0.000

Index of Country Profiles Japan より作成

“Report 2021”によると、日本の国会議員(参議院議員)における女性の比率は22.90%、男性は77.10%です。日本の衆議院議員の女性議員数(2021年4月1

日現在) は 46 人で、女性の比率は約 9.9% となっています。また、現内閣の閣僚は 20 人、女性は 2 人で、現時点では女性の比率は 10.0% です。2019 年 1 月から 2021 年 1 月までの間に、閣僚に占める女性の比率が急増した国は、ベルギーが 35% から 57.1% へ、アメリカが 21.7% から 46.2% に、それぞれ増加しております。アメリカでの増加の理由は分かりますね。いずれにしても、日本における国会議員、閣僚に占める女性の比率は外国と比べて極端に少ないことは明らかです。“Report 2021”によると、女性の大統領或いは首相の在任年数の長い国(過去 50 年)は、フィンランドが 13 年、ニュージーランドが 14 年、イギリスが 14.6 年、インドが 15.5 年、ドイツが 15.6 年、フィリピンが 15.8 年、ノルウェーが 17.4%、アイルランドが 20.8 年、アイスランドが 23.5 年、バングラデシュが 27 年となっております。日本はまだ女性の首相を輩出しておりません。『政治』の分野(156 カ国中 147 位)が、日本における男女格差の最大の課題になっていると言えるでしょう。

最後に、日本の現状をまとめてみたいと思います。世界経済フォーラムが発表した「2006 年版」と「2021 年版」を比較してみましょう。

	2006		⇒⇒	2021	
	順位	スコア		順位	スコア
世界男女格差指数	80 位	0.645	⇒⇒	120 位	0.658
経済	83 位	0.545	⇒⇒	117 位	0.604
教育	60 位	0.986	⇒⇒	92 位	0.983
健康	1 位	0.980	⇒⇒	65 位	0.973
政治	83 位	0.067	⇒⇒	147 位	0.061

Index of Country Profiles Japan より作成

2006 年版と 2021 年版(15 年間)の比較をみると、日本は世界の変化に対応できず、四つの分野全てで、「男女格差」が広がっていることが分かります。日本では、女性の平等な社会参加に限られており、先進国の民主主義国家としては珍しい現象と判断せざるを得ません。日本社会には、「男尊女卑」の考えが根強く残っており、封建的な要素を抱えている国であると言えるでしょう。これが、「バブル崩壊後の 30 年」において、日本が世界の様々な変化についていけず、経済的にも、政治的にも、社会的にも停滞していると思われる大きな一つの原因となっているのではないのでしょうか。Gender Gap から日本社会の「ゆがみ」が浮かび上がったような気が致します。